



新村の人口・世帯数
平成 29 年 1 月 1 日現在
人口 3,269 人
世帯数 1,283 世帯

新年のご挨拶



町会連合会長
新村 芳男

明けましておめでとうござ
います。皆様の今年一年のご
健勝をお祈りいたします。ま
た、日頃より新村地区の活動
に対しご理解とご協力をいた
だき、心から感謝いたします。

昨年、事
故、事件、災
害の年であつ
た様に思いま
す。驚愕の大
震災、大洪水
大火災など各
地の災害を目
の当たりにし
て、一層の防
災への取り組みを
害に強い地域
づくりを推し
進めていけれ

ばと思います。また、向こう
三軒両隣の絆、近助、町会内
の最小単位である隣組の大切
さを再認識させられました。
中信地域の活性化、発展に
寄与すると思われる中部縦貫
自動車道のスピード感ある進
捗を願いつつ、安心して何時
までも暮らし続けられる新村
の実現に向けて力を合わせ取
り組みたいと思います。



新年の様子

三九郎



除夜の鐘 (専称寺)



初詣 (岩崎神社)

地区の未来を語り合う



よりよい新村の未来に向けて

12月17日 (土) 新村公民館
にて、あたらしの郷協議会・
地域振興部会 (熊井靖夫部会
長) 主催の『新村地区の夢を
語る会 with 松大生』が開催
され、地区住民や松本大学生
ら約30人が参加しました。

松本大学の向井先生の講演
に続き、4つのグループに分
かれグループトークを行い、
「住みたくなる新村とは」の
中では、地域交流の場として
の空き家の活用やスーパード
の要望などが出されました。

まための中で向井先生や
関公民館長から「今回出さ
れた意見を夢で終わらせな
いことが大切」との話があ
り、できることから少しずつ
つ実現していくことが重要
だと感じました。

はっぴ 初日の輝き とりこんで



今年で42回目を迎える伝統
の行事で、参加した約40名の
ランナーは澄み渡る青空の
下、笑顔でハッラツと一年の
スタートを切りました。

平和を祈り

11月27日 (日) J A 松本
ハイランド駐車場において
新村地区戦没者・開拓物故
者追悼平和祈念式典が開催
されました。

これまででは例年3月に神
式・仏式による追悼式を行っ
ていましたが、今年から平和
祈念式典という形で開催する
こととなりました。

約30名の
遺族・住民
が列席し、
忠魂碑に向
かって追悼
の誠を捧げ、
世界平和を
願いました。



式典の様子

八束穂

毎年、観光
シーズン向け
て県外の多く
のバス会社が、
松本界限にお
ける車両運転
に關して特別
な講習会を実
施する。なぜか
と言うと、松本

地域の運転マナーの悪さは全国的
に有名だからだ。典型的な例は、
黄信号に変わりそうなのに急に
速度を上げて交差点を通過して
いく車。後続の車両のことを考え
ずウインカーを直前で急に出して
曲がついていく車。脇道から周囲の
状況を確認せず一般道に入つてき
て平然と過ぎ去っていく車。これ
らはいずれも身に覚えのあること
で肩身が狭い。最近、道に出よう
としている車を見かけると徐行
して進入を促すマナー、逆に進入
させてもらおうとハザードランプを
点滅させるマナーを特に松本ナン
バーでよく見かける。ならば、そ
のようなことができるのにどうし
て当たり前の運転ができないのか
と言われかねない。松本山雅のサ
ポーターのマナーの良さが有名な
反面、松本の人々の運転マナーの
悪さは直らないものか。一度貼られ
た悪いレッテルを払拭することは
なかなか困難で、各人がよく認識
し改善に努めることが肝心だ。

館報 発刊400号!

昭和25年7月1日に新村公民館報第1号が発刊された。発刊の挨拶で当時の波多腰武館長は、刊行を続ける上で非民主的意味の「知らしむべからず」は避けたいとしています。

「新の里」と館報名が改められたのは第7号で村民に親しみある名称となりました。題字は川久保博治館長の筆のことです。当時の記事は新村の主産業である農業技術の改善に主眼が置かれ、特に昭和28年の大凶作では被災農家の救済など深刻な状況が綴られています。

ほかに特異な記事では郡連合婦人会で巣鴨刑務所へ戦犯者の慰問に行き、金品を渡し「信濃の国」を一同低音で合唱して来たと言う隔世の感がある話題があります。

このように時代とともに歩む公民館報ですが、発刊号にある通り「知らしむべからず」は排除し、新村の歩みを振り返る語り部的存在になればと思います。

公民館長 関 成任



私が公民館報編集委員担当になったのは、平成10年、288号からです。毎号、一字一句編集し「新村の宝」を記録し後世に残すべく努力してまいりました。現在は個人情報保護が重要視され、成人式を迎えた方の名前の掲載の廃止、昭和52年、202号から住民の方々のエッセイを掲載していた「里の四季」が310号で終了したのは、館報と読者との距離感ができてしまい残念だと思っています。

新村公民館報の特徴として、昨年までの10年間、松本大学の学生編集委員が在籍し、地域密着型を標榜する大衆理念を受け入れてきました。住民の知らない学生生活の様子、学生の公民館活動への協力などを掲載させていたことができました。

公民館報は地区のみなさんと公民館の架け橋となるよう編集しております。これからも楽しみにしてください。

編集長 川合 文明

下新北 佐藤進さん 藍綬褒章受章



褒章を手にする佐藤さん

昭和35年から半世紀の長きに亘り農林業センサスの調査員を務め、藍綬褒章を受章されました。「突然の受章の知らせにビックリしました。」

佐藤さんは地域の農家を回り農業政策の基礎となる生産基盤や土地利用を調査してきました。

「知らない土地を訪ねたり、夜遅くに調査に向かったりと苦労しましたが、この様な章をいただき光栄です」と喜びを語っていました。

山王 宮澤今朝男さん 市技能功労者褒賞受賞



建築板金

工として47年の経験を持ち、業界の発展や後の継者育成に尽力、勤労感謝の日に行われた式典にて褒賞を受賞されました。

たまには腕を振るって

12月7日(水)「男性の料理教室」が開催され、7名が参加しました。

講師に割烹料理店で料理長をされた武田秀月先生を迎え「自宅で作れるおつまみレシピ」をテーマに「鶏肉の紅白煮物」や「松本葱の油炒め」など4品に挑戦。「家でも作ってみた」という声が聞かれました。



目から鱗の調理術

ものぐさ大学 おでかけワークショップ

11月15日(火) 四賀地区善光寺街道を32名で歩きました。急な坂道を登って廣田寺にてひと休み、ご住職のお話を聴きながらお茶をいただきました。磨崖仏を目指してもうひと頑張り。お昼には美味しい蕎麦と松茸ご飯を沢山のいただき、四賀化石館にてシガマッコウクジラの化石の説明を受け、魚類、植物などの化石を見学して来ました。

美術館めぐり

12月15日(木)33名が参加し、葦崎大村美術館と旧津金学校資料館を訪れました。

ノーベル賞受賞者が収集した美術作品への想いに感銘を受け、津金学校では昔懐かしい校舎や給食を堪能し、楽しく有意義な旅となりました。

第2回 ニュースポフェスIN 新村

11月27日(日) 芝沢体育館で開催され、親子連れなど約60名が参加しました。

新競技「バスケットピンポン」などのニュースポーツに加え、松本大学地域健康支援ステーションによる体力診断、マッサージ体験など、多くのブースが設けられ、参加者は思い思いに楽しんでいました。

民生委員・児童委員改選

○役職委員名

会長 上條美喜子(上新西)
副会長 青柳 昭夫(北新中)
会計 尾矢島一三(南新東)

青木 陽子(山王)
柳澤久美子(北新南)
白田 廣 (下新南)
津田 純子(下新北)

主任児童委員 宮下 陽子(南新中)

○任期
平成28年12月1日
平成31年11月30日(3年間)